

## 附属機関等会議録

令和元年9月30日

会議の名称	令和元年度第1回島田市食育推進委員会
開催日時	19時00分から 令和元年9月19日 20時30分まで
開催場所	島田市保健福祉センター 研修室
会議の議題	1 委嘱状、辞令交付 2 島田市食育推進委員会について 3 委員長、服委員長選出 4 議事 ①第3次島田市食育推進計画について ②令和元年度の食育の取り組みについて ③意見交換
会議の公開又は全部若しくは一部の非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 ・ 非公開（ 全部 ・ 一部 ）
会議の全部又は一部の非公開の理由	
公開の場合の傍聴人の数	0人
出席者の氏名等	【食育推進委員会委員15人】 長野会長、近藤副会長、齋藤委員、蔡委員、木田委員、小関委員、太田委員、天野委員、石川委員、塩澤委員、土井委員、紅林委員、亀山委員、大石委員、畑委員 【事務局】 健康づくり課職員6人
会議の結果	【委嘱状・辞令交付】 今年度は委員の改選年度であり、令和元年9月19日から令和3年9月18日までの2年間の委嘱期間で委嘱状及び辞令交付を行った。 【島田市食育推進委員会について】 事務局から、島田市食育推進委員会の説明、委員の選任について説明を行った。 【議事1】 事務局から、第3次島田市食育推進計画について、島田市食育推進計画の経緯と成果及び今後の展開、第3次食育推進計画のポイントと新たな取り組みについて説明を行った。

	<p><b>【議事2】</b>  令和元年度の食育の取り組みについて事務局から、食育の取り組みについての説明を行った。各委員から、所属団体によって取り組んでいる内容について報告があった。</p> <p><b>【議事3】</b>  健康づくりと食育に関するアンケート結果、第3次島田市食育推進計画の食育めざそう値である「食事を一人で食べる子どもの割合」について意見交換をおこなった。  各委員から、所属組織・団体によって取り組んでいる内容、取り組みの必要性についてご発言や報告があった</p>
提出された資料等	第3次食育推進計画、島田市食育推進委員会要綱（資料1）、島田市食育推進計画の経緯と成果及び今後の展開（資料2）、朝食または夕食の家族との共食頻度（資料3）
会議を所管する課の名称	健康づくり課
その他必要な事項	

## 1 開会

## 2 委嘱状・辞令の交付

委員の改選年度にあたり、島田市食育推進委員を委嘱する委員に委嘱状及び辞令の交付を行った。

## 3 健康福祉部長より挨拶

生活環境やライフスタイルが変化している昨今、食に関する新しい課題も上がっている。島田市食育推進委員会を中心に更なる連携を強化し、島田市の食育推進に御支援、ご協力をお願いしたい。

## 4 委員紹介

自己紹介によって委員の紹介をしその後、事務局の紹介をおこなった。

## 5 島田市食育推進委員会について

### 【資料1】

島田市食育推進委員会要綱に沿って、本委員会の設置、委員の組織等の説明を行った。

## 6 委員長・副委員長の選出

事務局案として、委員長に島田市健康づくり食生活推進協議会 長野恭子様、副委員長に中部大学 近藤今子様を推挙し、承認された。

## 7 委員長・副委員長挨拶

長野委員長 一生懸命務めますので、皆様のご協力をお願いしたい。

近藤副委員長 前回から長く委員長をさせていただき、委員の皆様のご協力で務めることができました。第3次食育推進計画の策定にも関わることができ、お礼を言う。長野委員長を支えながら、副委員長の任を務めさせていただく。

## 8 議事

### (1) 第3次島田市食育推進計画について

#### 事務局説明【資料2】

#### 【島田市食育推進計画の経緯と成果及び今後の展開について】

第1次島田市食育推進計画の策定から第2次計画、3次計画については、新たに取入れた取り組みについて説明した。

- 島田市食育推進委員会を中心に関係組織の連携の構築
- 食育の周知並びに食育の課題及びその解決の方向性の明確化と活動の推進
- 生活習慣病の発症予防、重症化予防への取り組みの強化
- 島田市食育推進の象徴的な活動の展開「具だくさん島田汁」を媒体とした食育の推進

○第3次計画では第1次・第2次計画における関係者の連携に基づく活動の維持に加え、更なる連携の強化と新たな課題への取り組み

### 【第3次島田市食育推進計画のポイント】

#### 《新たに取り入れた取り組み事項》

健康づくりと食育に関するアンケート調査」、第3次島田市食育推進計画の策定に関係した委員等のご意見、食育関連団体などの意見聴取等から反映した。

- ・乳幼児の「共食」の推進
- ・高齢者の低栄養によるフレイルの予防対策
- ・フードバンク、フードドライブ事業の推進
- ・お茶文化の継承に関する対策
- ・食品ロスに関する対策

#### (2) 令和元年度の食育の取り組みについて

事務局から行政の主な取り組みについて説明を行う。

- ・離乳食講習会
- ・健康づくりセミナー
- ・地域や事業所での健康教育や食生活相談など。

#### 畑 委員

フードバンク・フードドライブ事業の食糧支援について、平成 27 年度から行っている。行政では、全国で初めて取り組みをした先進的な市である。福祉課が担当課として行っている。申請者に配布している。単なる食糧支援だけでなく、それをきっかけに生活支援の制度に結び付けている。食を通じたセーフティネット。皆様の組織・団体にも不要な食品があれば協力をお願いしたい。その延長としてこども食堂の取り組みにもサポートしている。

#### 天野委員

学校では、民生委員がよく把握してくれている。地区の要保護の家庭に地域で取れた野菜等を持って行ってくれている。親の状態によって食べ物の有無も変わってくる。フードバンクを介していない事業だと思う。制度外でも地域で活動をしてきている。

#### 太田委員

幼児とのかかわりの中で気になっているのが、親が忙しいので一人で食事をする園児が多くなってきていること。家庭状況調査票で、好きなものアイス、お菓子 嫌いなものは簡単に野菜とはっきり記入している。親と一緒にご飯を食べないことが多い栄養の偏りが心配。

椅子に座れない子が多い。食事に 2 時間くらいかかる子がいる。朝食を食べてこない子も多くなっている。朝食の大切さ、マナー、親と一緒に食事をする大切さを伝えている。チャレンジメニューとして、子どもが苦手なものを一つ入れる。メニューの紹介も

している。将来を担うこどものために、しっかり食べることを伝えていきたい。

#### 長野委員長

食推協としては、いろいろな取り組みをしているが、今年度は、ブックカバーを作成した、食育ポスターの図案をそのままデザインしている。市内の書店にお願いし、毎月 19 日の食育の日にカバーを掛けてもらい、共食の普及啓発をしている。

#### 1) 意見交換

【資料3】朝食または夕食のかのクとの共食頻度から、子どもひとりで食べる頻度について意見交換を行った。

#### 土井委員

島田市の 11.7%の数字に驚いている。静岡県は教育委員会が行っている。年長以上のデータによる。島田市は多いかと思われる。調査方法によって多少違うので比較はできないが、しかし、島田市の数字が気になる。共食のいい効果について、「自分が健康と感じている」

「健康な食生活をしている」「規則正しい食生活をしている」「規則正しい生活リズムをしている」等が揚げられている。参考にしていきたい。

#### 齋藤委員

乳幼児の一人で食べる数字に驚愕している。ライフスタイル等難しい問題があるかと思う。いろいろな状況があると思う。質問の仕方の工夫も必要かと思う。お母さんも一緒に食べながら子どもと一緒に食べるが食育。

#### 蔡 委員

子どもが兄弟だけで食べることもある。状況見ていると好きなものだけを食べている。偏りの食事になっている。子どもたちだけで食べるとどうしても偏る。孤食よりも当然親と食べる方が大事と思う。見方を変えると、下顎発育に大きな影響がある。口を開けている子が多い。食を楽しみながら口を動かすことが大切。下顎の成長に影響していると思う。高齢者は、オーラルフレイルを早く見つけて対応できるかが大切。フレイルが少ないグループとは、いろんな仲間と会食したり、集まりに積極的に出てしゃべっている人たち、子どもたちも高齢者も筋肉をいかに動かしていくか、そこにうまく食育をからませて行くといいリンクができるのではないかと思う。

#### 木田委員

小さな子どもがひとりで食べるのは問題だと感じた。お母さん方も働けば時間がなくなったり、ますます、食育に関心がなくなっていくと思う。

#### 小関委員

データは驚いた。園でも嗜好調査をするが、孤食の園児もいる。地域性やシングルな

ど環境もあると思う。園でも今以上に共食の啓発をしていく。そして、なるべく子どもたちと顔を合わせながら給食を食べるようにしていく。

#### 天野委員

朝は親の方が家を早く出る子どももいると思う。ひとりで食べる子もいると思う。残量が話題になる。各学校で取り組みを行っている。現在、残量は4%程度になっている。目標の数値になっている。学校栄養教諭が5人いる。食育推進活動をしている年間 300 時間位授業をしている。様々な媒体を工夫して作っている。その他、島田に誇りを持たせる給食にも力を入れている。

#### 石川委員

お茶業界は、不振といわれているが、茶葉の売り上げと孤食、各家族化は密接な関係があると思っている。共食は大事ということは普及してもらえば嬉しい。家族で食卓を囲めば、祖父母や親がお茶を飲めば子どもたちも飲むという関係性がある。このようなスタイルが確立していくことが大切。お茶の淹れ方教室を開催している。子どもがお茶に興味をもってもらい家族で同様になれば嬉しい。お茶を飲むことの大切さを知ってほしい。家族と和食を食べる和食を食べるとお茶が合うというような、共食と同時に取り組みを考えている。

#### 塩澤委員

共食することが難しい時代になっている。数年前に学習塾でとったアンケートに土日に家族で食事をするかとの調査では、7割くらいが家族で食べる結果が出ている。休日には家族で食べようとしていることがわかる。子どもたちに家族で食べることは楽しいという体験をしなければいけない。

#### 紅林委員

島田市は、共働き世帯が他に比べて割合が多い結果が出ている。子どもの孤食もいろいろな場面が想像される。市内の幼稚園の一部はオーダー給食から、自園給食になった。温かいものは暖かく汁ものを提供している。小中は市内の野菜などを取りいれバランスのとれたものになっている、家庭では、あまりバランスにとられないで、楽しく食べることを優先してもいいのかなと思う。朝ごはんは大切だと思う。内容はともあれ、食べるきっかけを作ってあげることも大切に思う。

#### 亀山委員

共食をあまり意識した事はないが子どもが小さい頃は、一緒に食べていた。大きくなるにつれて、一緒に食べるのが少なくなっている。子どもたちの勤務が近いので我が家では、皆で一緒に食べているのではないかと感じた。

#### 大石委員

共食について、乳幼児の結果に驚いている。平日の共食は困難だが、休日はできてい

ると思う。小中学生では、一緒に食卓でもスマホを見ながら食べるということが聞かれる。スマホばかり見て食べる。スマホの使い方については苦慮している。

#### 近藤委員

国の第1次食育推進基本計画では、共食は出ていなかった。第2次計画で、食育をすすめるときに家庭での共食をとおして食育をすすめる上で出てきた。食育は体育、知育、徳育の基礎となるべきとこと、生きていく上での基礎といわれている。3次計画では、高齢者のひとり暮らしが増加し、生きがいや栄養摂取等共食したい人が共食できるようにと共食に対する期待度が上がった。家庭での共食は大事なものとなった。しかし、環境的に難しいものになってきた。できない環境をどうしていくか、家庭でカバーができないことが、こども食堂という形になり、社会が補うようになってきた。それは保育園、幼稚園であり、小学校などの教育機関や地域でもある。社会のフォローが必要になった。一方で、家庭への共食の大切さを啓発していくことは重要なこと。共食すればすべてが解決するかといえそうともいえない。

辛い思いをして同じ席に座っていることほど苦痛なことはない。共食できる環境は家の中の関係性が高い、会話がある、食事の支度ができる。など様々なことで成り立っていく。

全体的にまとまったサイクルとして成り立つもの、その切り口が共食で全体が成り立つのかもしれないが、なかなか難しい。少年院にきた子どもの40%が朝食を食べていないという結果の調査があり、少年院でも食育を行うこととなった。共食をするという環境は栄養以外にも様々なことを伝える過程となっている。30年以上前の教護院でも同様に、当時でも朝食は成り立っていない、お菓子の名前がたくさん出ていた現実があった。共食の果たす意味、役割をもう一度この会で共有、考えていくことは大切だと感じた。

#### 9 事務連絡

事務局より、第2回 協議会の日程連絡し、閉会した。

#### 10 閉会